

うさぎ文庫

2022年
3月号
うさぎ文庫



3月



寒い寒い冬の毎日ですが、少しずつ暖かくなってきました。春の匂いを感じられるようにお楽しみ。皆さんお元気ですか。

今年の啓蟄は3月5日になりました。木の皮の間地土の中、落ち葉の隙間で巣ごもりしていた虫たちが外に出てくる時期になりました。アザミの花壇は冷たい風が通り抜けたところですが、冬をくぐってこらえていた苗の花たちもこれからの暖かい日差しでぐんと大きく成長してくれるはず。チューリップの芽も毎日少しずつ伸びていますよ。子どもたちの入園、入学式には可愛い花を口に入れてくれるかなと嬉しく思います。うちにいるお花たちも部屋の中ですが、冬の間はお休みが長い。エサもほとんど食べませんが、最近では近づくよと動くお花も出てきて、エサをおげると一気に浮かびあがってくるお花も出てきました。みんな春を感じているんですよ。

ホムレージアドレス usagi-bunko.com

うさぎ文庫の活動は、コープとも結びついています。小さな鼓動。えんえん。もよほす。春の訪れ。待ってまよ。



＜兵庫陶芸美術館のはなし＞

先日丹波篠山にある陶芸美術館に行ってきました。県内の陶芸文化の振興を図り、陶磁器を中心に、美術品が多く展示されています。今回は2月27日まで開催されていた「やさしもの模様 - 動植物を中心に -」という特別展を楽しみに出かけました。

やさしもの模様のモチーフとしてきた動植物の多くは古くから描かれてきた花鳥画などの絵画からその一部分を写し取り生み出されたものが多くおられます。展示されていたやさしものには梅や菊などの花や、お松や竹、うぐいすや雀、鶯などのお鳥たち、鼠や亀、海老、たこ、サメなど海や川の生き物が生かすように描かれています。その一方で、動植物を観察して描いたお花をデザインされた模様もたくさんありました。特に楽しみにしていた宮本憲吉という陶芸家は羊歯(しだ)をじっくりと観察し、芯実に描いた葉描かしや、オリジナルな模様を生み出して個性あふれる素晴らしい作品を残しています。連続して描かれた模様の繊細な筆使いや色合いの美しさにうっとりしました。写真で見ると、やはり生きた実物を見るとその迫力に1つを打たれます。この特別展では、絵画のモチーフから描かれた模様と、自然の草のモチーフから生まれた模様の作品を比較しながら、視点を交えて発見できる展示でした。3月1日までは館内のメンテナンスのため休館中ですが、次回は3月14日(月)29日(木)まで、オールドリタケ 若林コレクションの特別展が開催される予定です。大お楽しみリタケの陶磁器のコレクションを過去最大の規模で紹介されたいと必死に観覧してきました。今からわくわくしています。観覧後は館内にあるレストランで丹波の里を眺めながら丹波焼の器でいただくコーヒーで展覧会の余韻にひたついたり、ゆったりと時間をおくことで日頃の疲れをじやと身体がほぐされた一日になりました。時にはぜひこういう時間が大切だとお楽しみを感じてほしいです。



さて、3月は年度末、学年の終りですね。1年が過ぎて子どもたちも一段と成長しましたね。お別れの3月でも別れがありますが、4月から新しい出会いに月も3くらみです。4月から保育園も幼稚園へ通い始める人、小学校や中学校に入園、入学する子どもたちへ毎年恒例のお花を準備しています。4月の1回目の文庫の日、4月15日にお渡しします。来てくれるのを待ってます!



うさぎ文庫の電話番号 924-7234 (菊川自宅 FAX共)

注意!! 4月の開室日: 15日、22日(金)